

三島 日本大学

同窓会々報

第 13 号

昭和 58 年 10 月 1 日
静岡県三島市文教町 2
日本大学三島同窓会発行



幹事会開催される

昭和五十八年度日本大学三島同窓会幹事会は、七月七日（木）十八時三十分より母校日本大学三島学園八号館二階において六十名の幹事出席のもとで行われた。

会は瀬川一男事務局長の司会で進められ、奥田吉郎副会長の挨拶の後、故種房繁会長を偲び出席者全員で黙禱が捧げられた。続いて議長団・書記の選出が行われた。議長に宮沢主計氏、副議長に渡辺勝一氏を、書記には浅井裕子氏、関野幹雄氏をそれぞれ選出し議長に入り、次の事項を承認した。

- 一、昭和五十七年度事業報告
- 二、昭和五十七年度決算報告
- 三、監査報告
- 四、昭和五十八年度事業計画案
- 五、昭和五十八年度予算案
- 六、規約改正について
- 七、総会について
- 八、役員について
- 九、その他

なお、事業関係は瀬川一男事務局長、予算・決算関係は石川貞夫会計担当常任幹事より説明、監査報告は中島敏男会計監査により行われた。（詳細は四頁参照）また、規約改正では、規約第三条の短期大学部三島の次に新たに「国際関係学部・大学院国際関係研究科」を追加することが承認された。役員については、種房繁会長亡き後

の会長選出等について討議され、

一応十一月三日（水）の総会まで会長代行は置かず五名の副会長の合議制でいくこと、後任会長候補については、副会長および事務局長に一任され大学とも協議しながら決定することが承認された。その他では、体育奨励会の発足について、また故種房繁会長追悼の会（十一月三日（水）総会で実施）について述べられ、見上勇逸副会長の閉会の辞で無事幹事会は終了した。

種房会長急逝

昭和二十八年度から三島同窓会長職を務めてこられた種房 繁氏は、五月に入って健康がすぐれずこの日人工透析中に昏睡状態になられ、五月二十二日午前〇時三十五分意識不明のまま半蔵門病院において亡くなりました。

以前から腎臓と肝臓を煩っておられ、気になってはいましたが、最近では小康を得て、四月には体育奨励会の仕事で学校にもお出で下さいましたのに……。

本務の東洋醸造㈱においても順調にご出世され、同窓会としてもこれから益々手腕を発揮して頂きたかったのに、こんなに急な訃報に接しようとは、ご本人もさぞ心残りなことで存じ、謹んで哀悼の意を表します。

故種房会長を偲ぶ



故種房会長略歴

昭4・3	北海道空知郡富良野に出生。	昭28・11	加入し、その才を大いに発揮された。日本大学三島同窓会長に就任。
昭22・5	日本大学三島予科入学。	昭29・4	東洋醸造(株)入社。
昭24・3	同 修了。	昭42・2	同 薬食品販売部次長。
昭24・4	日本大学法学部入学。	昭47・2	同 大阪支店長。
昭28・3	同 卒業。	昭49・3	同 名古屋支店長。
	三島教養部時代は、学友会・会計監査として活躍。	昭52・10	同 財務部長。
	学部移行後は、大学本部所属の雄弁会に	昭57・1	同 常務取締役付。(病気のため)
		昭58・1	日本大学三島体育奨励会会長就任。

謹んで故種房 繁氏の御霊前に
日本大学三島学園を代表して、お
別れの言葉を申し上げます。

あなたとは、大変長い御交際を
頂き、殊に私共日本大学三島学園
の同窓会長として、言葉に言い尽
くせぬ御貢献を賜りましたが、こ
のたび卒然として亡くなられ、ま
ことに痛惜の感深いものがござい
ます。

顧みますに、あなたが昭和二
十二年に入学された日本大学三島
予科は、兵どもが夢の跡ともうす
べき、野戦重砲隊のあとのキャ



ンパスでありましたが、ここに弊
衣破帽の最後の学生としてその青
春の根を下ろされた訳でございま
すが、夙に学生代表としてその敏
腕を振るわれ、なかでも昭和二十
三年の学園紛争の折には、身を挺
して正義と自由の指標を固持すべ
く学園の楯を守り通され、鈴木昇
六先生を始め故人となられた秋葉
安太郎先生、安藤公平先生、玉津
徳太郎先生がたを助けられたこと
は、本三島学園の歴史の上に輝か
しい金字塔として語り継がれてい
るところでございます。

その豪放磊落なドサンコ気質と
自らを顧みることなく、常に利他
主義に徹した人柄を属目されて、
法学部を卒業後ただちに東洋醸造
株式会社就職され、その全智全
能をかたむけて杜運の隆昇に貢献
されたことは言をまたないところ
でございますが、殊にその明晰な
洞察と冒険的知性とを駆使して東
洋醸造第二のパテントとも申すべ
き、新しき薬学の世界にその矛を
進められたあなたの実績は、私共
学園の者としまでも大きな誇り
としていたところでございます。

弔辞

小 池 文 雄

また一方、あなたの生来の開拓
魂は、昭和二十八年発足の日本大
学三島同窓会、初代会長就任以来
今日まで引き続き会長を務められ
奨学金制度その他を矢つぎ早やに
制度化されました。奨学金授与式
の壇上で受賞学生に奨学金を授与
される、あなたの学生に期待の念
をこめたあの慈眼、奨学金を受け
る学生の輝ける目、今あの場面が
走馬灯の如くかけめぐりますが、
今はもうせんないことでございま
す。しかし、あなたのまかれた種
子は、地にしみ大きく大きく広が

りつつあります。

また、ごく最近にも長年の懸案
でありました体育奨励会を設置さ
れ、三島学園に学ぶ学生及び付属
高校生徒に大きな希望の輝きを与
えて下さいましたが、初代会長と
してこれからあなたの力量手腕
を必要とされるときに残念でなり
ません。しかし、持病の療養中にも
かわらず、要請があれば夜に
さつた、あなたの意志は長くこの
会の礎となることでしょう。

わが三島学園を第二の心の故郷

としてこよなく愛し、ときには歯
に衣をさせず直言進言されたあな
たの半生を、三島学園の外史とし
て永久に後進の士に云い伝え語り
継いで行くことを、ここにあらた
めてお誓い申し上げ、弔辞とい
します。

六道を輪廻し釋繁了夏晩に去る
—— 嗚呼 ——
昭和五十八年五月二十四日

(日本大学三島学園事務局長)

タネさんとの出会い

見 上 勇 逸



私は昭和二十七年、札幌北海高

校の出張試験で日本大学の入学試験を受けた。前夜受験を決意した私は受験当日に願書を持参し、講堂に満ちていた受験生が潮の引くように各自の試験場に入室したあと受付を終り、既にテストの始っていた自分の部屋へ駆け込んだ。

暫らく社会生活を経験してから入試を受けた私には、受験生の中には誰一人として顔見知りもなく休憩時間になると私に受験をそののかした職場の友の顔をさがし求めて歩いた。

テストのあと二科目の試験が終ったとき、背広姿の試験員の一人が「ミカミユウゾウはいないか」と全員に聴く。私が「はい」と手を挙げると「何回も呼び出したのに何故返事をしないのか」「私の名前は「ミカミユウイツです」「理屈を言うな、大体君は自分の席に座っていないではないか」



あわてて試験場に飛び込んだ私は他人の番号の机で受験していたのです。旧制中学の卒業資格しかなかった私が認定試験の科目も受験しなければならぬことから発生した小さなトラブルが種房先輩との出会いであった。

先輩であり、三島同窓会の会長であった彼を、我々は気易くタネさんと呼んだ。タネさんが私と同郷の北海道人であること、彼の弟さんが沼津の千本浜で事故死されたことなど、タネさんと私の間には四期の渋谷巖先輩や、タネさんが下宿したことのある西島一江さんなど多くの人々との思い出もあるが、その誰よりもタネさんは先に逝った。

(昭和27・28年、法学部在学、全国生コンクリート工業組合連合会)

太く短い人生

奥 田 吉 郎



愛称と敬称をこめ、「種さん」と呼ばせて戴く。種さんが遂に逝った。

あの剛毅な種さんが、人工透析を続け、苦しい闘病生活でも、ついぞ弱音をみせなかったのに……太く短い人生であった。

昨今、北の国で脚光を浴びた北海道の富良野の出身であった。

偲 び 草

五月晴れの空が一転、突然の計

報に接しました。聞けば病を得ながらも学校行事にもよく出席なさった御様子。母校に尽くされた心の深さが思われます。

多くの人々の幸せの為に全力疾走され「この世ではやる丈やっただよ」と総てを尽くした人のみが言い得る言葉を私共の胸に焼きつけました。強くなければやさしさは持てないし、やさしくなければ強い資格はない——そしてあることに向かってひたむきに歩んだあの姿。過去形を使わなければな

平 井 千 枝

らない現在を淋しく思います。

三島、三島と三島に愛着を持って、又、卒業年次、学部を異にしても兄貴のような存在感で接しても下さった。この三十年間は文字通り母校よ、同期よ、後輩よと仕事、家庭の合間に同窓会員の団結と後輩育成につとめてこられました。この間にも強くない御体をムチ打つ事になり（痛みを訴える人ではなかったと何う）一層哀憐の思いに至ります。種房会長とは立場上、初めは身近な思いではなかったのですが、家政科二十周年の

れをとり上げても、そこに種さんの全力を投じた姿が浮かぶ。理論家であると共に、決めるとすぐ実施に移さずにおかない実行力が光っていた。

強引さもなくはないが、剛腹で面倒見のいい、また情に脆い人であった。

私も選挙の応援ではさんさん世話になり、世話になるこちらが却って心配する有様で、そのことについての愚痴や意見がましいことを一切言わなかった。

種さんを惜しみつつ、種さんの志を少しでも果たすことによって手向けとしたい。

(昭和23・24・25年、法学部在学、三島市長)

折、多忙をさいて出席下さり、又、名簿作成その他多数の問題を側面より応援頂きました。

その後、西村先輩達と在京同窓の集いを示され、学校を愛する気持をよく話されたり、機会あるごとに同窓諸兄とのつながりの輪を作っても下さり印象の強いものになりました。こうして時かれた心の「種」が今後名実とも「房」の豊かな実りに至るよう心を新たにして学園の発展に努めたいと思います。

種房先輩の御冥福を心からお祈り致します。

(昭和34・35年、栄養科在学、東京医科大学病院)

昭和57年度 事業報告

1. 奨学金の給付並びに同窓会長賞授与

昭和57年度日本大学三島学園在学生より、次の者が推薦された。短大関係は昭和58年3月25日の卒業式当日、学部教養課程関係は4月9日の三島学園開講式当日それぞれ授与式が行われた。

奨 学 金	1 名	平 野 英 一 (法学部)	
同窓会長賞	4 名	古 川 幾 代 (文科・国文専攻)	三 浦 早 苗 (文科・英文専攻)
		立石久美子 (家政科・食栄専攻)	藤 井 裕 嗣 (商経科・二部)

1. 学園歌集発行

学園歌21首を38頁に収め、4,000部を発行し、三島学園新入生全員に入学祝として渡した。

1. 総会並びに懇親会

昭和57年11月3日(木)16時から、総会並びに懇親会を、日本大学三島学園記念館で開催した。

1. 幹 事 会

昭和57年11月3日(木)13時から、日本大学三島学園記念館で開催した。

昭和57年度 収支決算書

(昭和57年4月1日～昭和58年3月31日)

(単位：円)

支 出				収 入			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	項 目	予 算 額	決 算 額	差 異
奨 学 費	550,000	213,500	336,500	会 費 収 入	2,570,000	2,610,000	△ 40,000
学 園 歌 集 発 行 費	280,000	280,000	0	雑 収 入	1,232,613	1,287,156	△ 54,543
同 窓 会 報 発 行 費	200,000	77,000	123,000	前 受 金 収 入	500,000	927,000	△ 427,000
各 科 同 窓 会 補 助 費	300,000	312,000	△ 12,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	400,000	410,800	△ 10,800				
会 議 会 合 費	250,000	146,034	103,966				
通 信 運 搬 費	100,000	9,990	90,010				
事 務 費	30,000	440	29,560				
雑 費	200,000	218,880	△ 18,880				
予 備 費	500,000	0	500,000				
計	2,810,000	1,668,644	1,141,356	計	4,302,613	4,824,156	△ 521,543
基 金 繰 入 額	1,000,000	2,200,000	△1,200,000	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	500,000	962,899	△ 462,899	前 年 度 繰 越 金	7,387	7,387	0
前 受 金	500,000	927,000	△ 427,000				
繰 越 金	0	35,899	△ 35,899				
合 計	4,310,000	4,831,543	△ 521,543	合 計	4,310,000	4,831,543	△ 521,543

貸 借 対 照 表

(昭和58年3月31日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	462,899	基 金	16,300,000
定 期 預 金	16,800,000	前 年 度 繰 越 額	14,100,000
		本 年 度 繰 入 額	2,200,000
		次 年 度 繰 越 額	962,899
		前 受 金	927,000
		繰 越 金	35,899
合 計	17,262,899	合 計	17,262,899

昭和57年度収支について関係帳簿ならびに証憑書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

昭和58年11月2日

会計監査 持 田 光 雄 ㊞
中 島 敏 男 ㊞

昭和 58 年 度 事 業 計 画

1. 奨学金の給付並びに同窓会長賞授与

日本大学三島学園を昭和59年3月卒業予定（国際・短大）、移行予定（学部教養課程）の者を対象とする。

教養課程（法・経・商・文理）……………若干名宛奨学金（2名程度）

短大課程……………各1名宛奨学金または同窓会長賞

国際関係学部……………各科1名（計2名）奨学金

1. 学 園 歌 集 発 行

学園歌21首を38頁に収め、3,000部を発行し、三島学園新入生全員に入学祝として渡す。

1. 会 報 発 行

会報13号（昭和58年7月）発行 12頁 5,000部

会報14号（昭和58年11月）発行 8 頁 5,000部

1. 名 簿 発 行

役員名簿を作成する。更に短大科別、教養期別名簿作成を推進する。

1. 総会並びに懇親会

昭和58年11月3日(木)16時から、日本大学三島学園記念館で開催する。

1. 幹 事 会

昭和58年7月7日(木)18時30分から、日本大学三島学園8号館2階において開催する。

昭和 58 年 度 収 支 予 算 書

（昭和58年4月1日～昭和59年3月31日）

（単位：円）

支 出				収 入			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減(△)	項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減(△)
奨 学 費	550,000	550,000	0	会 費 収 入	1,820,000	2,570,000	△ 750,000
学 園 歌 集 発 行 費	200,000	280,000	△ 80,000	雑 収 入	764,101	1,232,613	△ 468,512
同 窓 会 報 発 行 費	200,000	200,000	0	前 受 金 収 入	900,000	500,000	400,000
各 科 同 窓 会 等 補 助	800,000	300,000	500,000				
総会並びに懇親会費	430,000	400,000	30,000				
会 議 会 合 費	250,000	250,000	0				
通 信 運 搬 費	100,000	100,000	0				
事 務 費	30,000	30,000	0				
雑 費	300,000	200,000	100,000				
予 備 費	200,000	500,000	△ 300,000				
計	3,060,000	2,810,000	250,000	計	3,484,101	4,302,613	△ 818,512
基 金 繰 入 額	0	1,000,000	△1,000,000	基 金 繰 出 額	440,000	0	440,000
次 年 度 繰 越 金	900,000	500,000	400,000	前 年 度 繰 越 金	35,899	7,387	28,512
前 受 金	900,000	500,000	400,000				
繰 越 金	0	0	0				
合 計	3,960,000	4,310,000	△ 350,000	合 計	3,960,000	4,310,000	△ 350,000

大学院国際関係

研究科の誕生

国際関係学部は、学部の形として日本の第一号であったが、ここに、二年間の修士課程である、国際関係研究科(国際関係研究専攻)が、昭和五十八年四月から開設された。

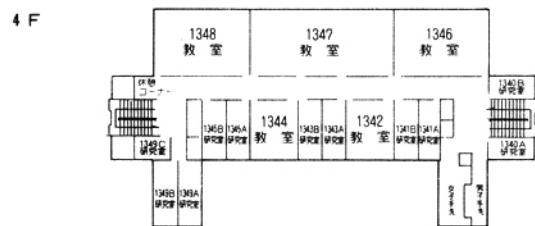
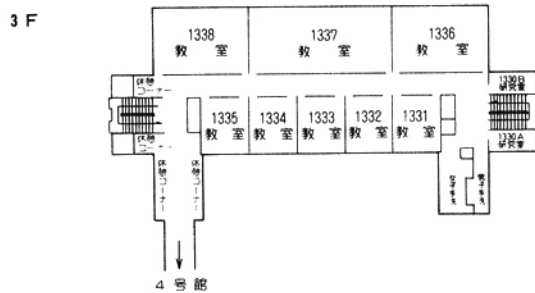
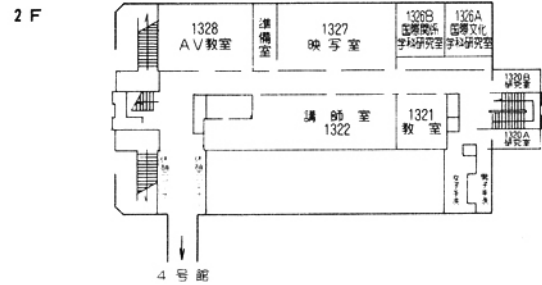
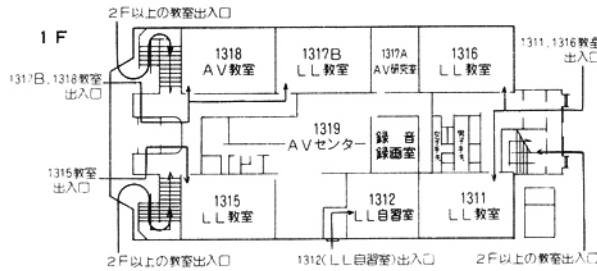
国際関係学部内および部外から計七名が合格し、五月から鋭意勉強中である。この中には、学部卒業と同時に結成された国際関係学部同窓会の役員も居るので、将来の三島を支える人材が育って欲しいものである。

校舎・13号館

竣工なる

大学院修士課程が誕生することと平行して、校舎13号館の建造が計画され、このほど4号館の北側にレンガ張りのシックな外観をもつて完成した。

十月八日には、修祓・竣工式並びに大学院開設祝賀会が、大学本部をはじめ各学部役教職員、学外の関係来賓等二八〇名の出席を得て、同館内で盛大に挙行された。次に平面配置図により館内をご案内いたします。



第33回三島大学祭

恒例の三島大学祭は、今年も十一月三日から六日まで、四日間にわたって開催される。

十一月三日、九時、野外ステージでの開会式に始まり、六日の後夜祭で幕を閉じる。統一テーマは「今、新たな時を求めて」で、国際関係学部三年・平野雅之実行委員長を中心に八〇名余の実行委員会を結成、内容充実をと張り切っているところである。

◇十一月三日(木)

開会式

九・〇〇

野外ステージ

市中パレード

九・三〇

市内一周



麻世れいら

文化講演

一三・三〇

講師

テレビ朝日レポーター

麻世れいら氏

演題

「男の社長学裏表」

一三三七教室

演武会

一三・〇〇

大講堂

初日祭

一六・三〇

グラウンド

◇十一月三日(木)～六日(日)

一般公開

学術・文化展 一〇・〇〇

四号館を中心とした各教室

文化・体育発表 一〇・〇〇

八号館三階講堂を中心に

郷土名産展 一〇・〇〇

(即売) 八号館二階

その他、アメリカカンフットボ

ール、サッカーの親善試合、

クラス参加行事、お祭り広場

など。



伊藤美奈子



村下孝蔵

◇十一月六日(日)

記念コンサート 一三・〇〇

ポップス

「村下孝蔵」

「伊藤美奈子」

大講堂

後夜祭

一六・〇〇

グラウンド